

総評

昨年度に引き続き、今年度はさらに第一問「語句知識、言葉に関する問題」の比重が増えた。後期の問題構成をベースに、前期で出題されていた行書を用いた問題や熟語の構成の問題が加わった形。その分昨年より長文読解の比重が減ったが、難度の高い記述問題は得点配分そのままで残り、比較的平易な記号選択や抜き出しの問題が少なくなったため、平均的に得点できる問題が減り、難化したと考えられる。古文は例年並みの難易度。平均点は昨年度より下がり、55.6点だった。

難易度・出題形式

【第一問】語句知識、言葉に関する問題 〈易～標準〉

漢字 16 点、語句知識（熟語の構成・縦画数・四字熟語）6 点、記号選択 5 点、表現訂正 5 点 計 32 点

問一①「費やす」の読みはレギュラーの漢字テストから、②「繕う」の読みは冬講で実施した語句暗記大会からの中。熟語の構成は苦手意識を持つ生徒が多いが、秋講で取り扱い、模試で出題される度に一つ一つ解説してきた。問二「予定」は「予め定める」と上の漢字が下の漢字を修飾していく、正答のア「仮眠」も「仮に眠る」という同様の構成。問四是【演説の練習】と【練習後の会話】をもとにした問題。会話形式の問題は特に秋講で対策を行った。(四)は前後の話が「すんなりつながらない」という指摘が「論理的であるかどうか」という観点」であると読み取れたか。やや考えさせる記号選択だった。

【第二問】物語文 〈易～やや難〉

記号選択 6 点、抜き出し 3 点、語句補充 3 点、記述 8 点 計 20 点

記号選択は易しい。特に問五の表現の特徴の記号選択は物語文頻出であるとして、強調してきた問題。問二の記述は問題文の「精神状態がとても混乱する中」という部分に上段終わりの奥山の会話文内容がすべて含まれるということが掴めたかどうか。「パニクって」の注釈に「混乱」があるのを冷静にとらえられれば、記述に入れるべき「汗をかいた手のことを知られたくない」という内容に意識が向いたはず。まずは記述以外を落ち着いて解答し、残った時間で記述に取り組むという流れは授業内で伝えてきた通り。

【第三問】随筆 〈易～難〉

記号選択 6 点、抜き出し 6 点、記述 8 点 計 20 点

記号選択はレギュラーや各期講習等で繰り返しているように、短く傍線を引き、○△×をつけて本文と合うかを確かめれば迷わない易しい問題。抜き出しはヒントとなる前後の文の内容と本文の抜き出し箇所とが離れており、やや探しにくかったか。問二の十字記述は本文中の「険しい場所に生えている草木の方が～ユニークな枝ぶり」「ぬくぬくと育った木は～ぱーっと生えている」という部分を使うのは分かったはずだが、ここを十字にまとめるには適切な語句を使って表現する力が必要。問五は模範解答の要素を満たした記述を書くのはかなり困難であり、国語が得意な生徒であっても部分点狙いの姿勢で時間を有効に使うのが正解。

【第四問】古文 〈易〉

歴史的仮名遣い 2 点、記号選択 3 点、記述 3 点 計 8 点

問一の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は冬講の語句暗記大会で入念に対策済み。問二(一)は「対比」という言葉に着目し、「部屋の中」「暗さ」⇒「外」「(雪の)明るさ」を表現できたか。(二)はそもそも古文の注釈や現代語訳が細かく丁寧だったため易しかった。レギュラーや各期講習等ではより難度の高い古文に取り組んできた。満点を目指したい。

【第五問】作文 〈標準〉 計 20 点

平成 28 年度から選択肢を一つ選んで作文する形式が続いていたが、今年度は投書を読んで自分の考えを述べる形式に変わった。投書の内容が「駅前の広場で行われたバイオリン演奏を人々がスマートフォンで録画し、その画面だけを見つめて聞いている光景に違和感を持った」、それを踏まえた作文課題が「録画しながら見たり聞いたりすることについて、あなたはどのようなことを考えるか」というもの。現代で当たり前になりつつあることへの疑問が扱われ、書くべき具体例が限られるため書きにくさがあり、高得点も取りにくい問題だった。あすなろ学院では各期講習やゼミで作文添削を十五回以上、レギュラー受講者は四十回以上行っており、多種多様な課題について具体例と課題にもとづいたまとめを 200 字の中で構成し 10 分以内で書き上げるという練習を積んでいる。